



認知症地域資源ネットワークモデル事業 練馬区

住民とともに進める認知症に強いまちづくり



平成21年5月29日

練馬区福祉部参事 在宅支援課長事務取扱 紙崎 修

1

練馬区の高齢者の状況

- 人口 総人口 702,922人(外国人含む)
65歳以上 133,455人
高齢化率 19.0%(平成21年1月1日現在)

要介護認定者数 21,565人
要介護率 16.2%(平成20年12月末現在)
- 要介護認定者の77.8%に何らかの認知症の症状があり、48.6%に見守りなどの日常生活上の介護の支援が必要 (平成20年3月要支援・介護認定審査データより)
★練馬区の認知症高齢者数(推計) 1万6千人

2

区の認知症対策～主な取り組み

- 平成17年度から認知症予防事業を開始
 - ◆ 認知症予防推進員の養成
養成講座修了者 447名
(20年度まで毎年100名規模で400人を目標)
 - ◆ 認知症予防対策高齢者生活実態調査
 - ◆ 啓発活動(講演会、パンフレット作成)
 - ◆ 認知症予防プログラムなど
- 平成20年度認知症対策事業を開始
 - ◆ サポーター養成講座
 - ◆ キャラバンメイト養成講座



認知症予防だけを目的とするのではなく、
認知症になっても安心して暮らせるまちづくりへ

モデル事業一練馬区の実施目的

- 区民、関係機関、認知症ケア関連事業者などと、行政が連携して『支えあうまちづくり』をめざす
- 区役所内で認知症のケアは多くの部署に渡るため、既存の予防を中心とした組織体制から、『予防とケアを一体化した組織体制づくり』をめざす

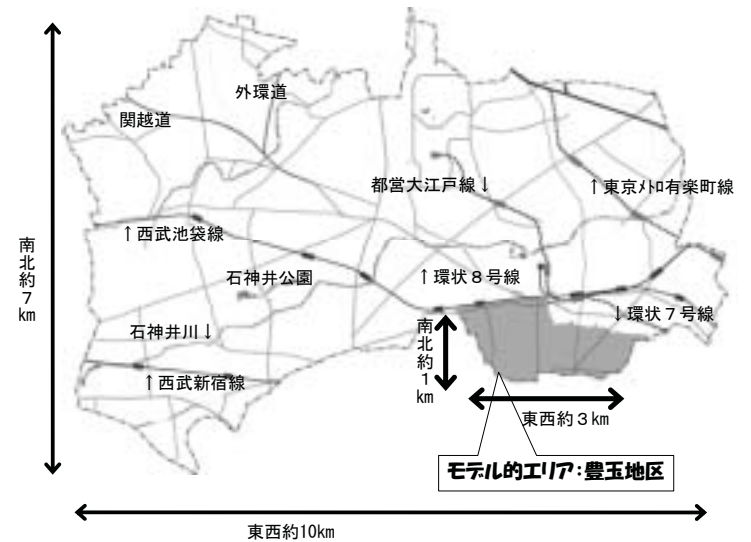
4

モデル地区の概要

- 練馬地域包括支援センター豊玉支所 管内
(担当地区: 豊玉南、豊玉中、中村、中村北、中村南)
- 人口 43,768人 世帯数 22,168
65歳以上人口 6,707人 高齢化率 15.3%
(平成19年5月1日現在=モデル地区指定時点)
- 地域の特徴 (※練馬区の特徴)
区行政の中心地に近く、市街化が進んでおり、戸建住宅や集合住宅が混在している地域である。
古くからの住民に加え、転入してくる住民も多い。

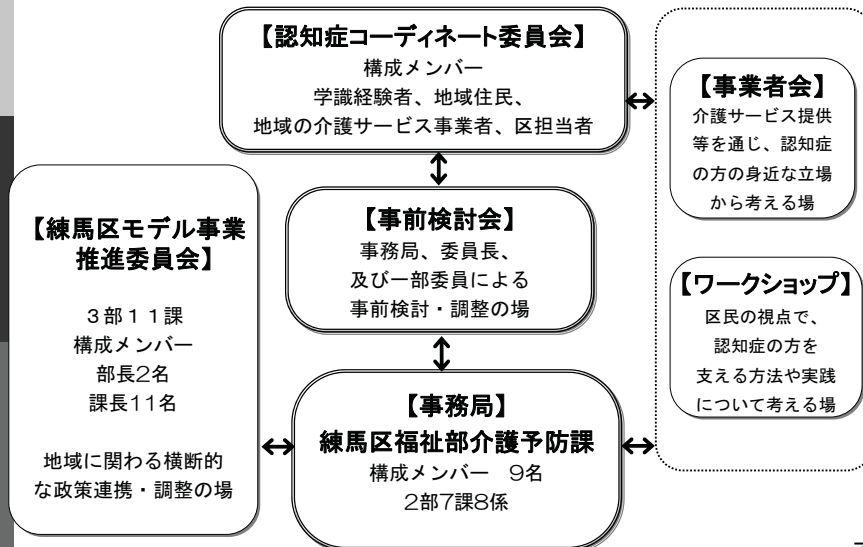
5

練馬区



6

モデル事業の推進体制



7

モデル事業—3つの課題



8

モデル事業～各課題の成果等

1 地域資源マップの作成

◎実際に役立つ事例を列挙

本冊「高齢者のお役立ち情報集(A4版40P)」及び簡易版4P
本冊は「検索ページ」と「地域資源リスト」の2部構成

2 徘徊SOSネットワーク模擬訓練の実施

平成20年12月 予備訓練実施 ★本物2名
平成21年 2月 模擬訓練実施 ★消防署

3 家族会の検討～現状及び支援について

家族会代表者からのヒアリング～活動内容・参加動機・課題
認知症コーディネート委員会の意見～周知方法・普及啓発等

9

1. 地域資源マップの作成

<作成方法>

- 最初に、「本人・家族にとって役立つ場面」と「近隣の住民が支えあうために役立つ場面」の二つについて、実際に役立つ事例を列挙した。
次に、事例から共通の困りごとや悩みをグループ分けした。
- 困りごとの内容から、どこに相談したらよいか本人・家族の視点で、検索する形にした

<構成>

- 本冊「高齢者のお役立ち情報集(A4版40P)」及び簡易版4P
- 本冊は「検索ページ」と「地域資源リスト」の2部構成

10

<練馬区版の特徴>

- 「地域資源リスト」・・・所在地や連絡先だけでなく、関連地域資源の解説や本人・家族が困ったとき、実際にその資源が役立つ事例を紹介
- 「セルフチェック表」・・・認知症の早期発見・早期診断を促すため、発行元の同意を得て掲載
- 「体験談」・・・家族会報より、地域で支えられた人の話を掲載
- 「検索ページ」・・・「困ったときに⇒こんな条件があると⇒こんな方法がある」という展開で、相談窓口を紹介
- 「簡易版」・・・1枚版とし、誰もがわかりやすい、最も身近な相談先として、高齢者相談センター(地域包括支援センター)の連絡先を表紙の最初に掲載。下にかかりつけ医・緊急連絡先・民生委員・ケアマネジャーの名前や連絡先の記入欄設置

※ 練馬区ホームページに掲載中

11

索引 こんが時には...

このページをみれば、情報が載っています。



12

2. 認知症高齢者徘徊SOSネットワーク 模擬訓練(予備訓練)の実施

(1) 目的

徘徊SOSネットワークの構築に向けて、協力関係機関や一般区民に検索に必要な情報(ダミー情報)を配信し、以下の二点を検証

- ①迅速・正確な送付・受信
- ②通常業務や生活の場での目配り、発見、声かけ、連絡

(2) 実施方法

事前に承諾を得た協力関係機関・一般区民が参加
徘徊役の区職員が、モデル地区内を演技しながら移動

(3) 主催 練馬区在宅支援課(事務室を拠点として受発信)

13

(4) 模擬訓練参加者・団体

練馬警察署、練馬消防署、町会・自治会、老人クラブ、地域商店街、民生委員、介護保険サービス事業者、認知症支援ワークショップ参加者、行政担当部署(在宅支援課、地域包括支援センター、豊玉保健相談所、安心・安全担当課)等

(5) 訓練の検証 <予備訓練>

介護保険サービス事業者が発見・連絡

●メール送信件数 78件(不着7件)

FAX送信件数 62件(不着7件)

●FAX送信(送信開始から終了まで90分)に時間を要したため、送付先の優先順位について検討が必要

★訓練参加者が実際に徘徊している2名の高齢者を見守り・保護

14

<模擬訓練>予備訓練を踏まえて

- 介護保険サービス事業者及び民生委員が発見・連絡
- メール送信件数 80件(不着5件)
FAX送信件数 61件(不着6件)
- FAX送信10分で完了…民間のFAX送信サービスを利用
- 消防署が訓練に参加…保護後、体調悪化の場面を設定

★訓練参加者からの意見

「後ろから声をかけられると不安を感じる」(徘徊役)

「発見時の声かけやその後の対応などのポイントを周知する必要がある」(主催者)

「本人への聞き取り・搬送などの対応のため認知症に関する情報を知らせて欲しい」(消防署担当者)

「警察での保護後、身元判明までに時間を要する場合や夜間など、区でも保護場所を確保して欲しい」(警察署)

15

3. 家族会の検討~現状及び支援について <家族会代表者からのヒアリング>

(1) 活動内容

定期会合、会報発行、勉強会、施設見学の実施など

(2) 参加動機及び効果

- ・情緒的、精神的安定を求めて参加する家族が多い
- ・直ぐに問題を解決したいと思っている家族が多い

(3) 課題

- ・家族会の存在そのものを知らない人に対する啓発
- ・既存の家族会の継続的支援(例:場所、人、資金)
- ・会合に参加するための「お出かけ支援」や「見守り支援」があれば参加できる家族が増える

16

3. 家族会の検討～現状及び支援について

< 認知症コーディネート委員会で出た意見 >

- ・身近に行ける家族会が欲しい
- ・家族会の存在そのものを知らない人が多い
- ・広報誌への掲載、チラシ配布やケアマネ、医師、地域包括支援センター職員等の口頭による周知を期待
- ・若い人向けにインターネットによる家族会が設立できたらよい
- ・参加者の高齢化が進んでおり、家族会の存続のためにも若い人に参加して欲しい
- ・家族会の運営には、場所と資金の不足という問題がある
- ・家族会をよく知らない家族に初回は紹介者が付き添うなど配慮が必要

17

モデル事業関連～区での取り組み

1. 第4期(平成21～23年度)介護保険事業計画の策定

★2. 医師会との協議(認知症作業部会の定期的開催)

3. モデル地域の住民によるワークショップ

4. モデル地域の介護保険サービス事業者の会

5. 認知症シンポジウム等の開催

6. 認知症サポーター養成講座の実施

7. 連携と組織体制

18

● 医師会との協議

練馬区医師会と認知症作業部会を開催

平成20年6月～平成21年3月まで7回

(協議内容)

- ①物忘れ相談医名簿の作成・・・全会員にアンケート調査
物忘れ相談医ステッカーの作成・配布
- ②シンポジウム「みんなで支え合おう認知症！」の
パネリスト参加
- ③かかりつけ医認知症対応力向上研修
- ④平成21年度認知症専門相談医や講演会への協力体制
- ⑤認知症リーフレットの医師会加入医療機関への配布

19

● 認知症支援ワークショップ

「みんなで作ろう！認知症の方も暮らしやすいまちづくり」
認知症サポーター養成講座修了生が参加

平成19年11月から平成21年3月まで月1回開催

- ≪テーマ≫ ◆相談窓口や医療につながるには
◆介護者の負担を軽くするには
◆地域との関わり(人との交流、活動、見守り)

● 事業者アンケートの実施と事業者研修

● サポーター養成講座

町会・自治会・老人クラブ・商店街など

モデル地区: 11回、269人(平成21年3月現在)

20

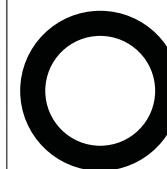
認知症シンポジウム (平成20年11月20日開催)

医師会、家族会、
介護保険事業者
などと一緒に
「みんなで支え合う
まちづくり」をめざす。

認知症サポーター養成講座



認知症についての理解を広め、
地域で認知症の方や家族を
見守る応援者を養成します。



orenjiringu

認知症の人を見守る
応援者であることを
示すorenjiringuは、
「日本古来の柿の色」と
「元気の出る色」と
いう意味がこめられて
います。

区全域：76回、2535人
(平成21年3月現在)

22

モデル事業の効果

組織改編(20年度)

介護予防課 ⇒ 在宅支援課
認知症予防事業係 ⇒ 認知症対策係

※地域包括支援センターの調整担当課

23

モデル事業の成果・区施策に反映

平成21年度以降、第4期介護保険事業計画で区全域に展開

1. 認知症高齢者支援ネットワーク事業(平成21年度～)
徘徊高齢者の発見・保護の仕組みなど支援体制を構築するため、住民や介護保険サービス事業者、関係機関などと連携し、支援ネットワークづくりを推進 ※ツール=地域資源マップ等
2. 家族・介護者支援(平成21年度～)
家族同士の交流を図るために、家族教室の開催や家族の会ボランティアの育成、家族の会の立ち上げ支援
3. 認知症高齢者見守り支援(平成22年度～予定)
認知症の方の話し相手や見守りなど、介護負担の軽減

24

平成19年10月～平成21年3月の2年間にわたり、18回の認知症コーディネート委員会が開催されました。

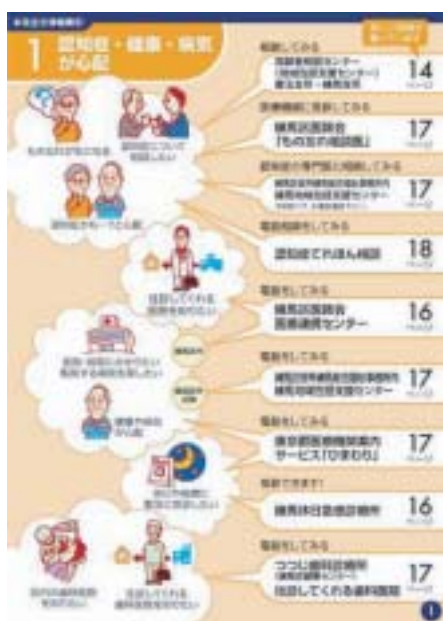
その活動報告を大きく三つにまとめて報告いたします。

◆ [活動その1] 地域資源マップが「お役立ち情報集」として完成しました。

- 認知症コーディネート委員会で、最も強く要望された「認知症のご本人の気持ちに立とう」を念頭に、介護の場面で出会った方々の事例を検討し、初めに生じた困りごとに着目して分類し、実際に役立った情報をご案内するように作成しました。

索引 こんな時には・・・

このページをみれば、情報が載っています。



困ったことから、役立つ情報を探すことができます。



- 認知症の解決は、医学の力だけではありません。地域でこれまで通り生活をおくるためには、周囲の人の理解や協力も力となります。
- 情報集には、地域の「配達してくれる商店」「出張サービスしてくれる理・美容店」も掲載されています。この情報集は、そうした理解や協力の輪・広がり的一端を示すことによって、認知症の方やそのご家族の皆様の安全・安心につながることをめざして作られた、支えあう地域づくりに向けた「道案内」です。

◆ [活動その2] 徘徊 SOS ネットワーク「模擬訓練」を行いました。

平成21年2月10日(火)にモデル地区内(中村・豊玉地区)で模擬訓練を行いました。

今回の模擬訓練のテーマは、

- 特別に捜索隊を組んで探すのではなく、普段の生活の中での見守りなどによる発見をめざす。
- 情報を関係機関やネットワーク登録区民に早く的確に伝える。



<訓練の概要>

午前 9 時 30 分から午前 11 時まで約 1 時間 30 分程度、高齢者に扮した区職員がモデル地区内を徘徊しました。

その後、練馬警察署に保護され、救急隊によって病院へ搬送されるまでを訓練として行いました。

徘徊者の特徴を伝えるメール・ファックスを訓練参加者約 150 名に配信し、その情報を見た参加者によって 2 回発見されました。



<訓練を実施して>

発見者からは、「普段なら気に留めないことでも、情報をもらうことで、意識的に周囲を見るようになりますね。」という感想がありました。

メール・ファックスは、搜索依頼があってから約 20 分以内に参加者の元に届き、円滑な情報伝達が行われました。



◆ [活動その3]「家族会」の役割や課題について検討しました。

○家族会「木瓜の花」の活動を聞きました。

家族の本音や悩みが安心して出せる場になっています。

○コーディネート委員会では、次のような意見ができました。

- ・身近に行ける家族会が欲しい。
- ・家族会を、もっと多くの人に知ってもらえるように伝えていくとよい。
- ・家族会へ参加するまでには、葛藤や迷いが生じるので、初回は、紹介者が付き添うなどの配慮が必要。
- ・家族会の参加が、介護を続けていく上で大事な支えになるが、本人を見てくれる人がいないと参加できない。

介護者同士こんな会話が飛びかいます。



「病気なんだから怒っちゃだめだよ」と病院で言われるけど・・・

毎日のことだものついで・・・

〜〜モデル事業の成果の反映 今後の区の取り組み〜〜

平成 19・20 年度に取り組んできた東京都認知症地域資源ネットワーク事業の成果を踏まえ、平成 21 年度以降は区全域に展開していきます。

1、認知症高齢者支援ネットワーク

徘徊高齢者の発見・保護できる仕組みなど、地域における認知症高齢者の支援体制を構築するため、住民やかかりつけ医、介護保険事業者、警察など関係機関と連携し支援ネットワークづくりを進めていきます。

2、認知症家族・介護者支援

家族・介護者同士の交流を図るために、勉強会や介護者サポーター養成講座、家族・介護者の会の立ち上げ支援を行います。

3、認知症高齢者見守り支援

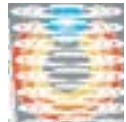
認知症高齢者を対象に見守りなどを行い、家族・介護者の介護負担の軽減を図ります。

モデル地域の住民の方々の取り組みを紹介します。

住民の立場から、認知症の方や家族が安心して暮らせる地域づくりを目指しました。

地域で認知症の方を見守るための オレンジステッカーづくり

地域づくりの「シンボル」として、また徘徊の方を発見した時の連絡先として「オレンジステッカー」を作成し、掲載のお願いと周知をしました。



認知症になっても
地域で安心して暮らすまちづくり
認知症支援ネットワークモデル地区
練馬区役所内
練馬地域包括支援センター
03-5984-1111 (代)

認知症が正しく理解されて、ご近所と、ご本人やご家族と話ができるまちなになればいいわね。

介護者の負担を軽くするには・・・

家族の負担を軽減するためには、ご近所と顔の見える関係になるといいんじゃないかな。



地域の集会場場でサポーター養成講座を開催した後、茶話会を開催。好評だった茶話会を続けます。

相談窓口や医療につながるには・・・

もの忘れが気になりだしたら
気軽ににご相談ください。

一番なじみの、かかりつけのお医者さんに、もの忘れの相談ができるといいのだけれど・・・

- メンバーが自分の主治医を訪問し、もの忘れ相談について話し合いました。
- 医院に「ステッカー」を貼ってもらい、相談しやすくなりました。



認知症支援ワークショップメンバー

掲 示 板

『お役立ち情報集』配布のお知らせ。

豊玉中・豊玉南・中村北・中村・中村南地域版、高齢者のための『お役立ち情報集』をお渡しいたします。モデル地域の65歳以上の世帯に4月21日よりお渡しいたします。配布場所は、区役所在宅支援課または、練馬福祉事務所内地域包括支援センター、練馬地域包括支援センター豊玉支所・練馬支所、豊玉高齢者センター、中村敬老館、豊玉北地区区民館、中村地域集会場です。

最終号 平成21年3月発行

連絡先 練馬区健康福祉事業本部 在宅支援課
〒176-8501 東京都練馬区豊玉北6丁目12番1号
TEL 03-5984-4597 FAX 03-5984-1215